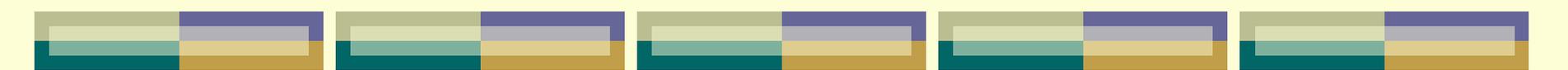


防犯環境設計 特別研究委員会 報告



樋村恭一(ひむら, きょういち)

東京大学大学院 工学系研究科 研究員

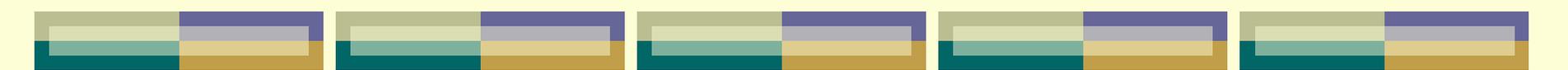


委員会の目的

日本における 防犯環境設計の
具体的手法を検討し
提言を行うこと目的とする

背景

- 環境設計による犯罪防止を目的とした研究は、アメリカ合衆国をはじめ、ヨーロッパ諸国において盛んに行われ、住宅団地や公共住宅の設計や改善により、犯罪防止を目的に実施されている。アメリカにおける防犯環境設計は物的環境のみならず、社会環境の改善をも含む総合的手法となっている。日本において防犯環境設計を実際の施策に応用するには、次ぎのような問題がある。

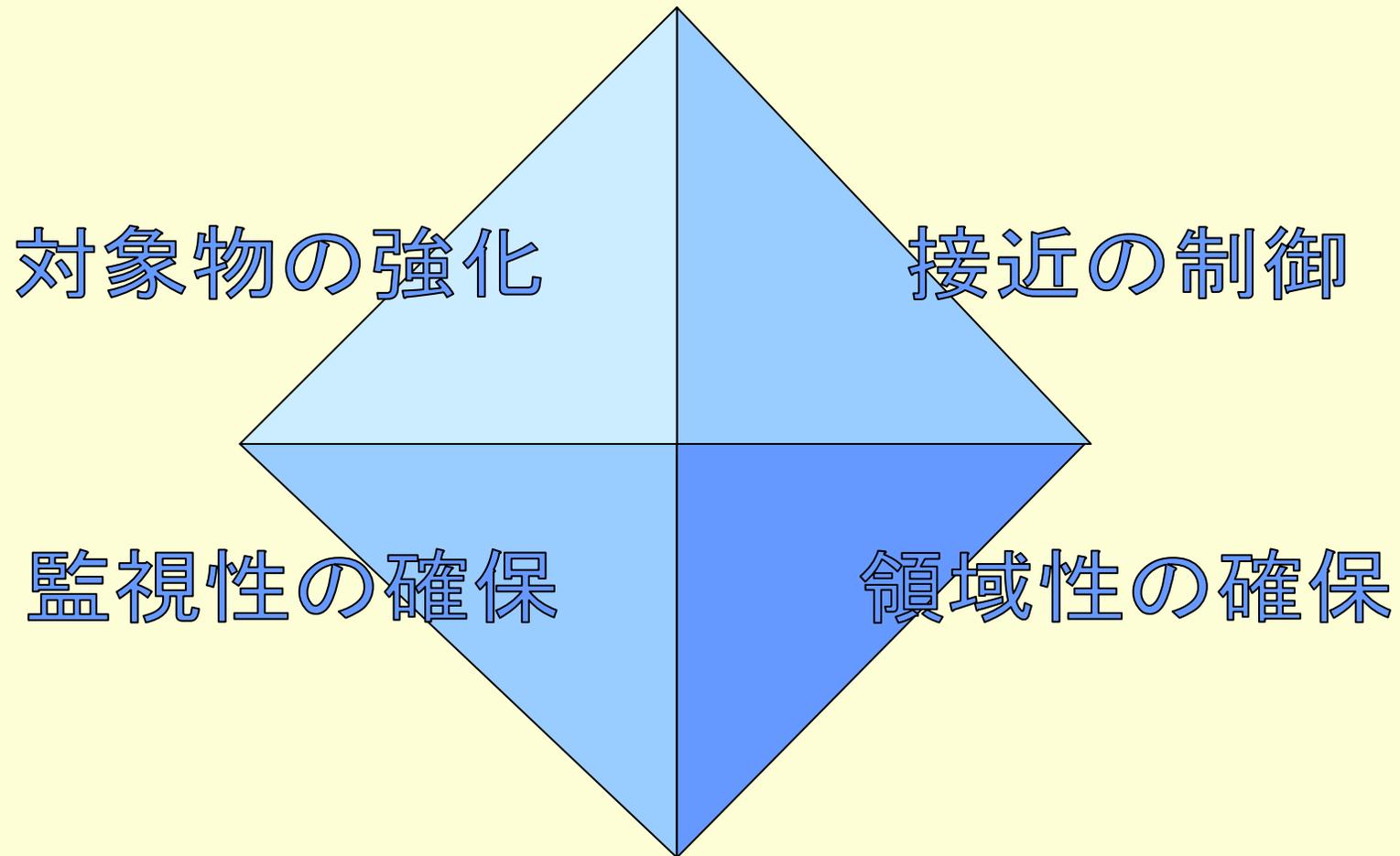
- 
- 住宅などの物的環境が欧米とは大きく異なること
 - 犯罪の発生頻度が欧米に比べて少ないこと
 - この犯罪状況の違いから、日本の環境のなかで物的環境と犯罪の関係を定量的に検証することが困難であること
 - 物的環境と犯罪の因果関係は、犯罪者の心理的要素に大きく依存するものであり、犯罪手口により異なり、普遍的な因果関係を決定できないこと

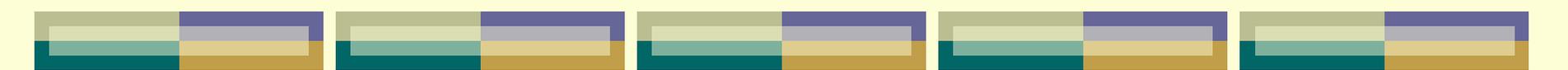
防犯環境設計とは

- 防犯環境設計の概念は、
『人間によってつくられる**環境の適切なデザイン**と**効果的な使用**によって、**犯罪に対する不安感と犯罪の発生の減少**、そして**生活の質の向上**を導くことができる』という考え方に基づく。
- CPTEDとも呼ばれている。

Crime Prevention Through Environmental Design

防犯環境設計の基本原則





調査研究内容

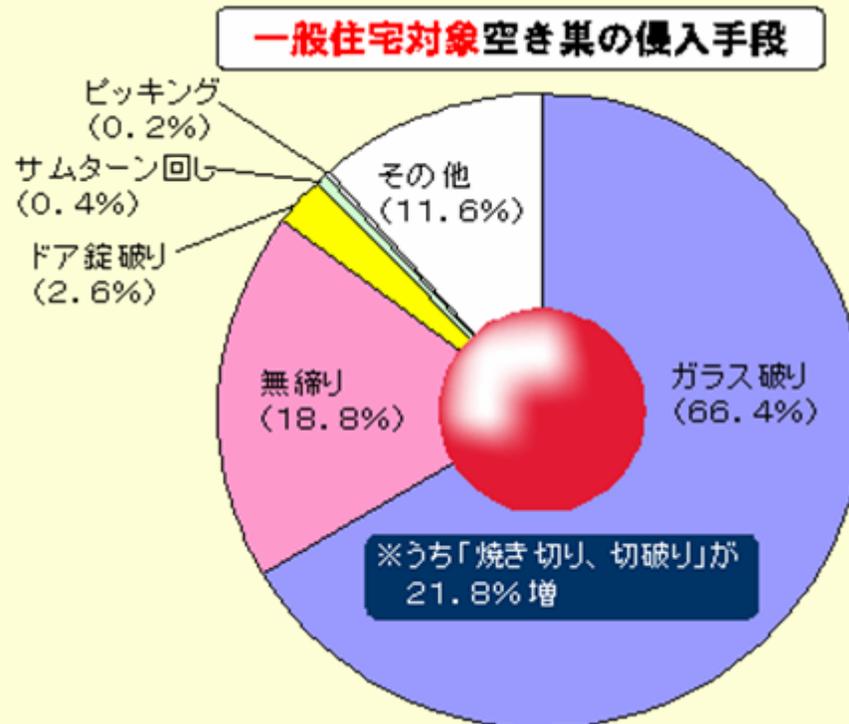
- 犯罪発生空間や犯罪の手口の実態調査
(犯罪の実態)
- 空間の分析
(空間の弱点を分析する)
- 犯罪を予防する手法の提案
(実態把握と空間分析の結果を防犯につなげる)

空き巣の侵入手段

● 戸建住宅

ガラス破り(ガラスを割って侵入するケース)が全体の66%

無締りとは、施錠されていない状態(家人が戸締りを忘れたなど)の開口部を探して侵入すること

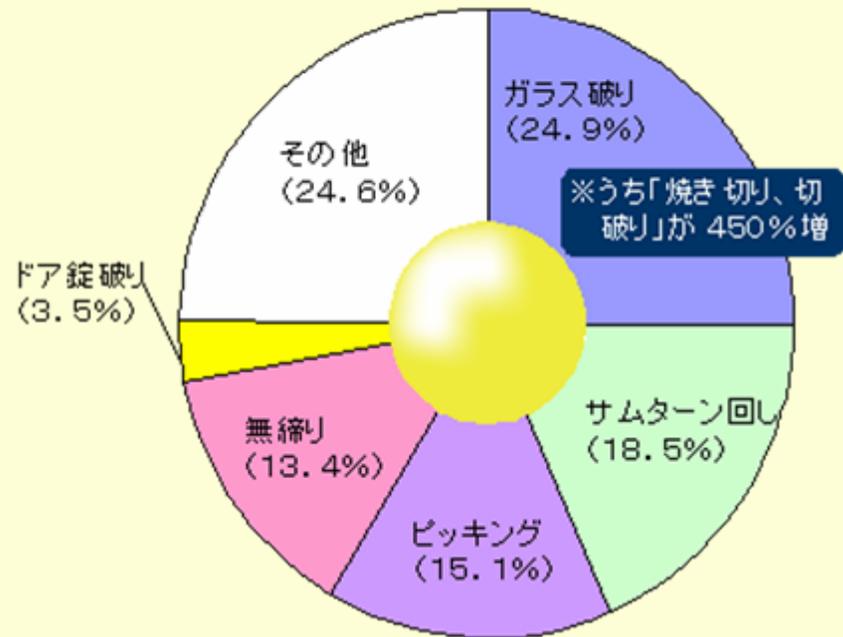


空き巣の侵入手段

● 共同住宅

戸建て住宅の場合と比べると、ガラス破りの占める割合が減り、不正開錠など玄関ドアからの侵入が多くなる

マンション等対象空き巣の侵入手段



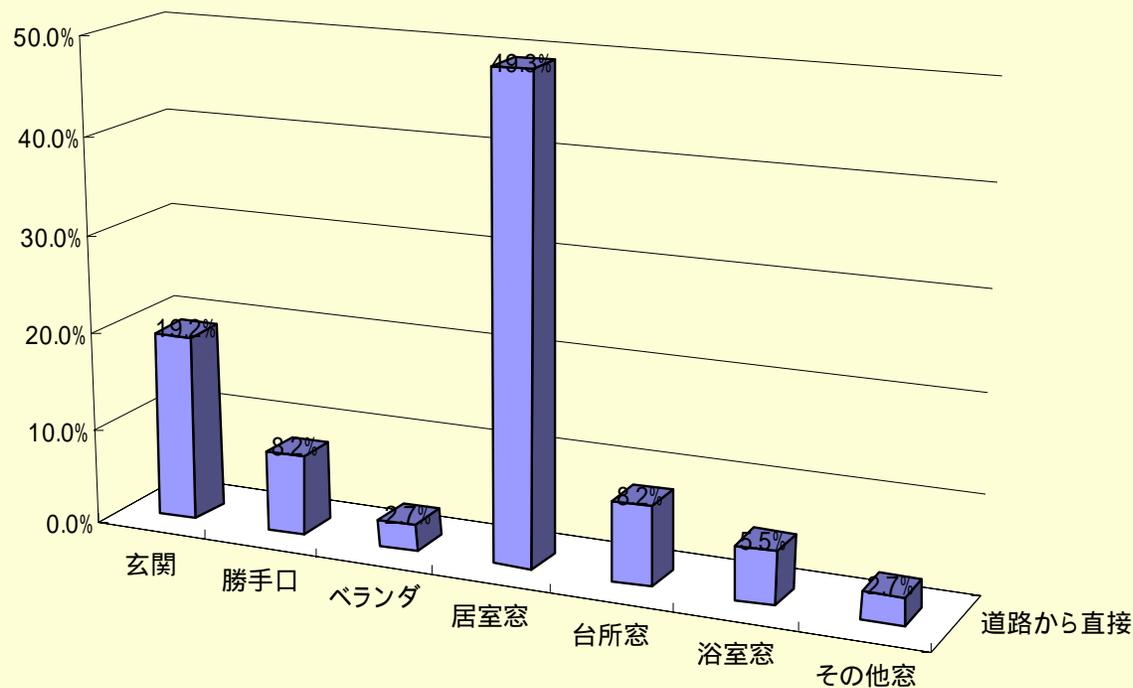
● 1階のどの開口部が狙われるのか？

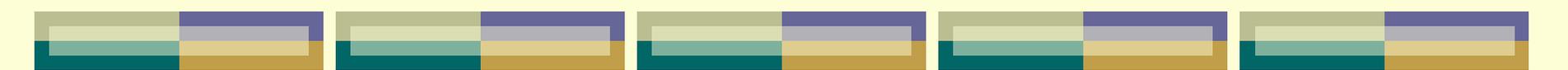
居室窓 49%

玄関 19%

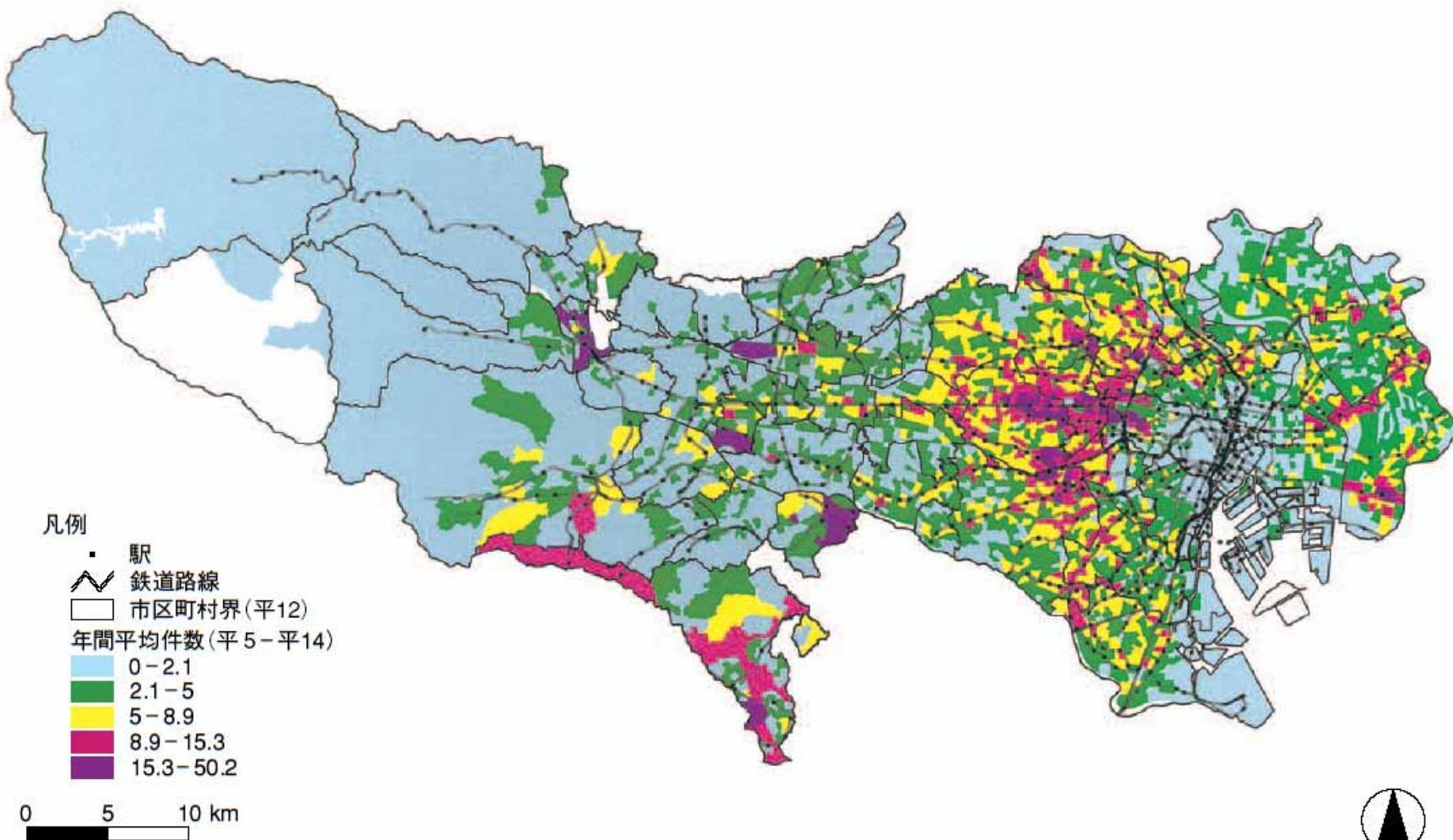
台所・浴室窓 13.7%

勝手口 8.2%



- 
- 住宅対象侵入盗の発生の多い地区は、被疑者にとって、なんらかの「魅力 = 引き付ける要因」があるはずであるという考え方に立ち、その「引き付ける要因」を探るための調査を行った。
 - まず東京都内における住宅対象侵入盗の多発地区を抽出し、多発地区の一部を調査対象地区として現地調査を行い、住宅及び地域の環境と犯罪発生の関係を導き、住宅の立地環境別に防犯対策を検討した。

住宅対象侵入窃盗の発生空間分布

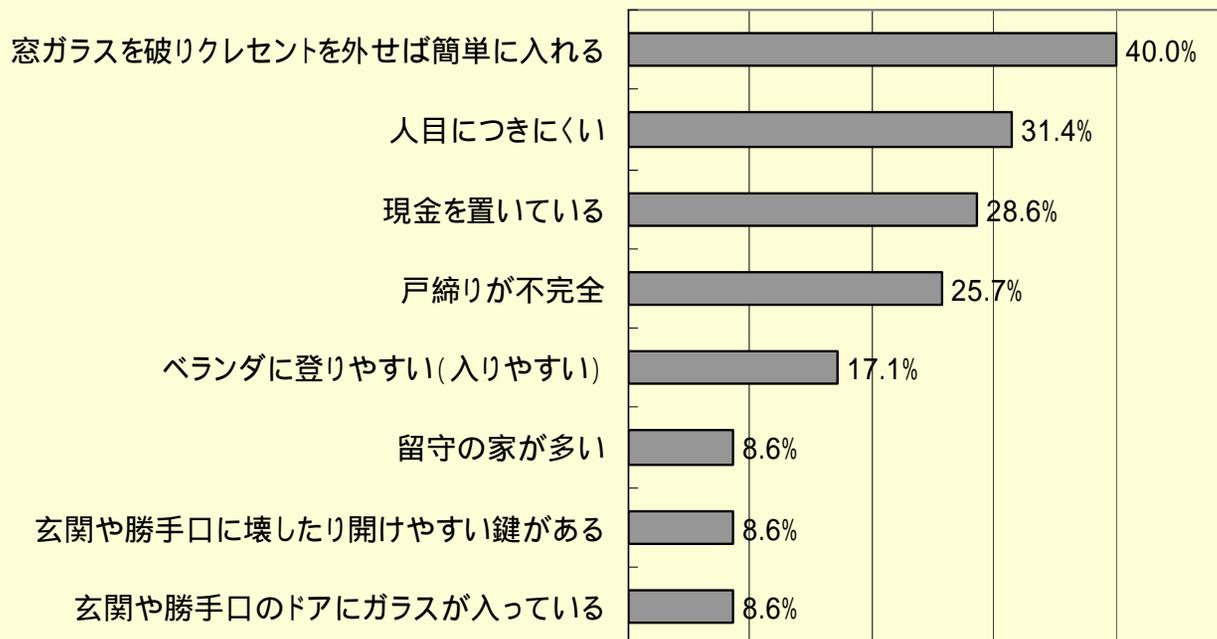


公園や緑道に接している環境



公園、遊歩道、駐車場などに隣接する住宅
下見をしても怪しまれない環境

● 犯行の決め手となったのは「容易に侵入できる」「人目につきにくい」



● オープン外構

囲障がないと建物に容易に接近できる。このような場合、1階開口部の強度を高めれば、侵入を防ぐことはできるが、敷地内での犯罪(自動車盗、車上ねらい、自転車盗、放火など)を防ぐことは難しい



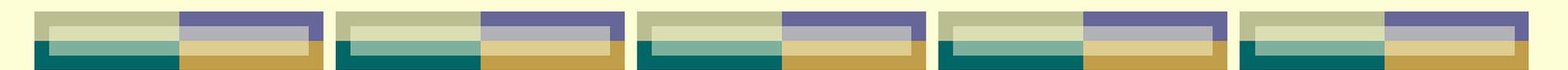
● 人目につきにくい開口部



塀によって外から見通しのきかない
開口部が狙われた



人目につかない開口部には面
格子設置が望ましい



空き巣の発生空間の特徴

- 外構にブロック塀を使用している住宅。
- 緑道・遊歩道・公園・駐車場に隣接する住宅。
- 単身者や共働き等，昼間不在がちな生活スタイルの地域が狙われる。

立地環境別の評価

● 住宅密集タイプ

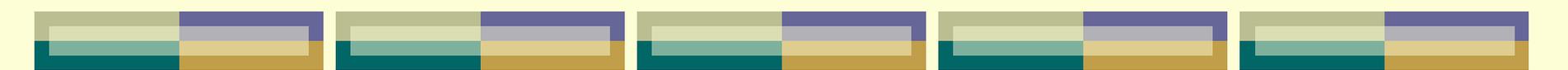
住宅密集地に立地しているタイプ。狭い路地やブロック塀・植栽などで身を隠しやすい環境が死角となる。

● 周辺空地タイプ

住宅地であるが、住宅の周辺に駐車場などの空地などが隣接しているタイプ。下見や不在確認が容易に行える環境である。

● 坂道タイプ

坂道の途中に立地しているタイプ。坂をのぼる人の視線から外れやすく、また建築設計上死角が多い。



- 共同住宅隣接タイプ

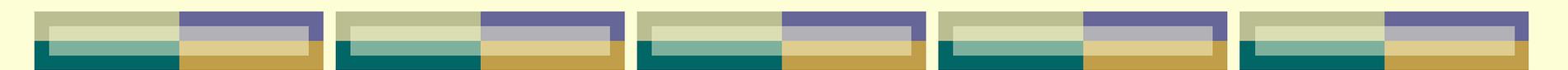
アパートなどの共同住宅が隣接しているタイプ。共同住宅が家の裏側などに建てられ、家の裏側は人の出入りが多く、不審者の見分けが困難。また共同住宅の住民が昼間不在が多い場合、周囲の監視性が低い状況である。

- ブロック塀タイプ

住宅がブロック塀で囲われているタイプ。周辺の住宅もブロック塀で囲われていると侵入する時の足場になりやすく、一度敷地に侵入してしまえば、ブロック塀に外からの視線が遮られる。

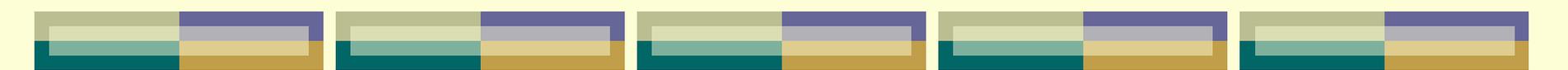
- オープン外構タイプ

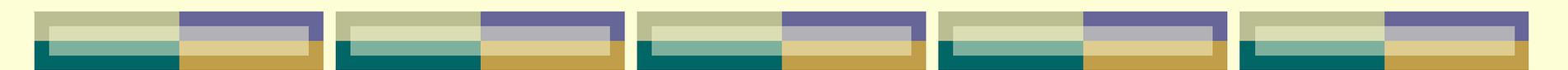
敷地境界に囲いのないオープン外構のタイプ。周辺から建物内の様子が見えやすく、敷地内への侵入が容易。



住宅対象侵入盗（空き巣）の総合的な対策

- (1) 住宅単体として防犯面が弱い。外構や開口部を強化するなど、防犯性能をあげることが必要である。
- (2) 外構にブロック塀を使用している住宅が多く、見通しが悪い。ブロック塀を取り払い、見通しの良いフェンスや、管理が行き届いた生垣にする。
- (3) 宅地が狭小である場合は、あふれ出しが多く、街全体の見通しを妨げている。車や植込みの枝葉が敷地からはみ出さないように管理をしていくことが必要である。

- 
- (4) 細街路に住宅が立地している場合は見通しが悪いいため細街路を解消し、また電柱・看板・路上駐車などを排除して、街全体の見通しを確保することが必要である。
 - (5) 公園・駐車場・空地・緑道は、その周辺住宅に対して人の目が届きやすい設計・管理を行う。
 - (6) 公園・緑道が周辺住宅地と無関係に造られているため、公園と周辺住宅とが一体となる整備が必要である。一体となる整備ができない場合は、相隣関係に配慮して公園・緑道の設計をすることが必要である。

- 
- (7) 一時的な空地を利用した駐車場は、設計・管理がずさんであることもあるため、周辺の住宅に対して防犯に配慮した管理・設計を行う。
- (8) 住民に利用されていない公園・緑道は、植栽や照明の管理をよくして使いやすいようにすることが必要である。

正確な情報・理論・根拠に基づいた 防犯対策

犯罪を管理できる時代